Rotary 国際ロータリー第2520地区　クラブ創立 1968年2月12日

大河原ロータリークラブ会報

2022~2023年度
国際ロータリーのテーマ
イマジン
ロータリー
IMAGINE
ROTARY

会　長：岡崎　隆　副会長：佐々木由美子　広報・IOC 委員長：津田　政行
幹　事：庄司　大　副幹事：鈴木　孝典　副委員長：中山　雅之
委　員：櫻井　淳一

2022~2023年度IR会長　ジェニファー・ジョーンズ
国際ロータリー第2520地区 2022~2023年度ガバナー　天沼久純

例会日：毎週木曜日 12時30分　例会場：和洋亭ぶざん　柴田郡大河原町字新南 25-18　TEL 0224-51-1113

2022年7月7日(木)　第2606回 例会

会長あいさつ

会長　岡崎　隆

皆様こんにちは、今年度最初の第１例会です。第55代の会長を拝命いたしました岡崎 隆です。今日は今年度入会された田中さんが年度初めからご出席いただき大変嬉しく感じております、本当にありがとうございます。

私も入会してから結構年数が経過しておりますが、大河原ロータリークラブは私が生まれた年の１ヶ月前に創立しておりますので、それを考えると私も55歳になるわけですけれども、大河原ロータリークラブも歴史を感じます。

今日は第７波ということで報道ではコロナの感染拡大が世界各地で起こっているということで感染には気をつけてこの１年間行事を進めていきたいと思います。私の年度の活動内容を理事会で決めていくということで詳細についてはまだ詳しくは決まっていないのですが、１年間私がどのように行事を行っていくかということを皆様にお話ししたいと思います。

それで今月第４週の例会は夜間例会を計画しておりますが、私は本当に感染防止に気をつけるという意味でオミクロン株対応の抗原抗体検査という検査キットを持っていますので、是非夜間例会に参加される方は会場の受付に置いておきますので参加する前に検査をしていただいて安全を確認してからご出席いただくような夜間例会にしていきたいと思います。

拡大の程度によっては皆様にお諮りして例会のあり方も考えていきたいと思いますが、できるだけ対面で皆様と笑顔で接しられるような１年間になることを祈念しまして、私の会長挨拶に代えさせていただきます。よろしくお願い致します。

奥林潔前会長・岡崎隆新会長のバッジ交換

本木拓也前幹事・庄司大新幹事へのバッジ交換

入会のご挨拶　　田 中　史 人

初めまして、菓匠三全の田中史人と申します。大河原ロータリークラブには 35 年以上前に交換留学生として色々お世話になりました。その頃から私の祖父の田中 實が当初お世話になっておりまして、次に叔父の高橋尚敏がお世話になりました。

この度、私がまた大河原ロータリークラブにお世話になるということになりましたのでどうぞよろしくお願いします。本当にロータリークラブとはご縁がありますので、また今後ともよろしくお願い致します。

岡崎隆会長より入会の目録を受ける田中史人新会員

新入会員の田中史人さんに会長よりバッジの交付

幹事報告　　幹 事　庄 司　　大

こんにちは。今年度より幹事を仰せつかりました庄司 大と申します。よろしくお願い致します。また、田中史人さんご入会おめでとうございます。これから一緒に活動できることが楽しみです。

私は幹事という事で未熟ですけれども精一杯頑張っていきます。岡崎隆会長を支え、また会員の皆様に充実して楽しんでもらえる会をつくれるように努めて参りますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

本年度の活動内容について　　会 長　岡 崎　　隆

皆さん改めましてこんにちは、本当に私は未熟なので皆様の支えがないと 1 年間乗り切っていくのがなかなか難しいのかなと思っています。庄司幹事と一生懸命 1 年間頑張って参ります。

準備がなかなかまとまらず、幹事報告にもありましたように、新旧合同理事会の開催についてもバタバタとなってしまったことを改めてお詫び申し上げます。会長挨拶で冒頭申し上げるはずだったのですけれど、7 月 8 日山家正信会員、誕生日おめでとうございます。24 日にも今日ご出席の報告いただきました小田部晃二郎先生、誕生日おめでとうございます。

1 年間の活動計画は前回のクラブフォーラムで申し上げました通り、理事会を開きながら決めていくということで新たに具体的な中身についてお話しできるのは第 4 週目になります、今月の第 4 週目はケータリングにおいて大河原町の中央公民館の 2 階で行います。その 2 階には大変な調理の設備があって、あの飲食スペー

スがある部分がなかなか使いこなせないでいるという、私一町民としても悔しい思いをしているような設備がありますので、どうか有効活用しながら交流の場を知っていただきたいというのが、町に携わる人間として強く思っていました。何とか公民館は町の中心にある施設なので盛り上げて皆さんにも知っていただいて、今後活用いただいて、アフターコロナの中でもいろんな商売、飲食に結びつけるような再興できるような施設があるという事を知っていただきたくて、あえて前会員であった炭火焼き大ちゃんにケータリングを頼んだら快くＯＫをいただいたので、是非多くの皆様に月末の夜間例会に参加していただきたいと思っております。その他、青少年奉仕委員会と社会奉仕委員会といろいろ協議して理事会で検討しながら、子どもの権利を守るため子どもを大切に育てるという意味で色々と考えながら進んでいく中で、今年度は社会奉仕委員会の予算にもちょっとお手盛りしました。

昨日、原田先生と銀行でたまたまお会いしたのですけれども、前年度の収支の中で 140 万円新たに予算が剰余金として出たよということもお聞きしたのですけれども、また今後会員の皆様に還元するのか、どのような使い道にするのか。高城英男さんから理事会等ではそんなにお金を残しても意味ないというご意見もいただいておりますので、今後お金の使い方についても皆様にお諮りして進めていきたいと思います。なお今回、田中史人さんがご入会した中でも、私は今年度更に 5 人ぐらい会員さんを増やしていきたいという方向で進んでいく、そのような決意も持っております。退会防止も非常に大切なのは、昨年度を通じて私も痛感いたしました。志があっても退会された方にも何とか復帰していただけるような、そのような努力も設定していきたいと思っておりますので、これも私 1 人ではできません。様々なミーティングやいろんな夜の催しを考えながら、そのような会員増強に繋がる機会を増やしていかなければならないと思います。4 名減ったことで予算も 80 万円縮小となると、行事を正常に 1 年間行うとなった時にやはり窮屈なクラブになってしまいますので、その旨皆様には含みおきいただきたいと思います。

今年度の第 1 例会では、ＲＩ会長のメッセージを拝読させていただきましたので、ここでちょっと我慢していただいて、ＲＩ会長のメッセージをお話しさせていただきたいと思います。私は地区協議会や他にも何回も聞いていますが、まだお聴きになっていない会員さんもいると思いますので、ちょっと読ませていただきます。

～ＲＩ会長のメッセージを紹介～

なかなかコロナ禍ということで大変な年度ではありますけれども、昨日実は月曜日に私ともう 1 人仙台の議員さんと 3 人で橋本聖子さんと直接お話しする機会がありました。そこでオリンピックについて本当に 206 か国から 2 万人の方が訪れるという大変な大会だったのですけれども、きちんとバブルを形成して施設外の医療機関にはたった 5 名しかお世話になることがなかったというくらい徹底した、コロナ対策ができた成果、レガシーと言われるほどの大会だということをお聞きしました。そこのオリンピック選手村は、晴海埠頭にありまして 1 番海に近いところの一角に 1 万人。将来学校が出来たり、人が住むような街になる、そこがオリンピック村で選手村でしたけれども、そこのマンホール汚染排水というのを細かく研究者が調べてコロナの患者さんが出ないにも関わらず、毎日コロナのウイルスが検出されたようです。206 か国の方がお見えになってそこで滞在した中で、今までどこにも見つからなかった菌とかも検出されたということも聞きました。それはどういうことを意味するかというと、コロナのような新たな生活日常を脅かすような細菌はそういう多くの人種、世界中の人たちのことを調べれば予防できたり、防げたりすることが今後できるのではないか。環境面から感染症をあらかじめ防いでいくっていうそういう医学的な進歩も今度考えられるのではないかっていう話を聞いた時に大変心強く思いました。

本当に感染防止ということにしっかり取り組みながら私も 1 年間会長として、幹事とともに皆さんの支えをいただきながら頑張っては行きますけれども、本当に感染者を 1 人も出さないでより多くの場面、対面式でできることを考えております。本当にご家族もありますので無理な開催はしないで、できるだけ多くの交流

の場をこのロータリーで行うことで退会防止、そして新入会員の更なる増加を図りながら進めていきたいと思います。

どうか皆さま方からもお声掛け親睦・集会の知恵がありましたら、どうぞ忌憚なく私に言っていただければ各理事会・委員会の方と揉んで進めていきたいと思います。何卒、庄司幹事と私の２人を足して、まだ100歳ちょっとで未熟な２人ですが、何かと１年間難しいかと思います。会長も幹事も本当に皆様に支えていただきながら頑張っていく所存ですけれども、本当に去年から今年と移り変わって不安の種がまだ私の心の中では拭えていない部分もありますけれども、前を向いてしっかり頑張っていきたいと思いますので、どうぞ１年間、特に新入会員の田中史人さんにはロータリーに入って良かったなと思える１年間にするように私もしっかりと頑張っていきますので、お支えいただきます事を心からお願い申し上げまして新年度の活動内容とはいきませんでしたけれども、私の新年度の抱負と受け止めていただきたいと思います。どうぞ１年間、庄司幹事と頑張りますのでよろしくお願いいたします。

出席の報告　小田部晃二郎委員長

米山ＢＯＸの報告　櫻井淳一委員長

スマイルＢＯＸの報告　武者昌洋委員長

2022年7月14日(木)　第2607回 例会

会長あいさつ

会長　岡崎　隆

皆さんこんにちは、この1週間にいろいろな出来事がありました。参議院議員選挙の結果が出ましたが、その最中の7月8日午前11時30分ごろ、安倍晋三さんが奈良市で演説中に背後から発砲され命を落とすという衝撃的な出来事が起こりました。

日本という国において、かけがえのない指導者を失ったのは間違いのない事実であり、世界各国でも大きく報じられたのも安倍晋三さんの功績があってこそだということを個人的にではありますが思い知らされることにもつながりました。

各国の報道の中でもインドにおいて特段の対応がとられたことを紹介いたします。インドは他の国に先駆け、暗殺の翌日を国全体が「喪に服する日」とし、ナレンドラ・モディ首相は「わが友安倍さん」と題し思いをホームページに掲載し、喪に服すとともにアメリカ・オーストラリアとともに共同声明を出しております。

重ねてインドのテレビでは安倍元首相の特集番組を一日中放送し、公共放送のみならず民放各社も夜を徹してこれまでのインドと安倍元首相の取り組みについて説明しておりました。いかにインドの人々に寄り添っていたのかが汲み取れる場面でもあると受け止めました。安倍さんはインドの人々にこれほど愛されていたのかと驚きました。

そして私なりに彼の功績がいかにインドにとって有益で理にかなっていたのか調べてみますと3つの理由にたどり着きました。

1つ目は「クアッド」であります。2007年、参議院選挙で敗北した安倍首相は無理を押してインドを訪れました。そこでインド史に残る「二つの海の交わり」という有名な演説を行いました。中身は太平洋とインド洋は1つであること。つまり「インド太平洋」、アメリカ・オーストラリアとの協力によって日本とインドが協力し結束すること、つまり正確にインド太平洋を述べてはおりませんが、のちの「クアッド」の内容が語られたのでした。日米、米豪と同盟関係から蚊帳の外であったインドにとって「インド太平洋」という安倍首相の当時の発想は有益であり、対立する中国との約4000キロの陸上国境において対峙する中国の脅威において必要であったと考えます。1991年のソ連崩壊以降、戦略的なパートナーを探し続けていたインドにとって当時の安倍首相はアイデアをくれる素晴らしい戦略家だったのであります。

2つ目のインドへの功績はアイデアだけはなく、行動も伴っていたことが理由として挙げられます。「クアッド」については2007年以降いったん政権交代でオーストラリアが離脱しますが、2017年第二次安倍政権時に大きく進展を見ることになりました。インド太平洋に関しても同じくオバマ政権末期からトランプ政権に至るまで安倍首相が中心となり、4か国の枠組みの連携強化を推し進めインドに安定をもたらすことにつながりました。

同年2017年の「ドクラムの危機」、中国軍15000人がブータンと領有権を争うドクラム高地に軍事的侵入を開始した際に、ブータンを支援すべくインド軍が投入され4000キロに及ぶ国境線で戦闘態勢に入りました。そして8月15日ラダクで両軍が衝突した際に銃撃こそなかったものの、両軍は石を投げ合い多くの負傷者を出しました。エスカレートすれば軍事衝突に発展しかねない現実がそこにはありました。

その時も中国の脅威に近隣諸国が口をつぐむ中、8月18日には平松インド駐在大使が「力による一方的な現状変更を支持しない」と発表し、インド中が歓喜したとのことでした。このような他国に脅威を及ぼした行動を断じて許さない旨の声明は戦後の日本では前例がなく、安倍首相の功績としてインドに力強く印象付けたと思いました。

最後に第3の理由として、安倍首相の右派的な側面がインド人の人気を集める要素だとも感じました。靖国参拝や憲法改正、敵基地攻撃能力、防衛費の増額などをどの政治家よりも声高に主張する彼の姿に強さを重ねていたと感じました。

先ほど紹介した「二つの海の交わり」でも、はっきりと「強いインドは日本の利益であり、強い日本はインドの利益である」と演説で述べております。

そういった側面は特に中国や韓国から警戒されることにつながりますが、インドでは真逆であり警戒する中国・韓国の支配者が日本であったからにほかなりません。インドにとっても歴史上、英国や欧米諸国が支配者であったので当然でしょう。

日本はその欧米諸国にかつて抵抗したアジアの国であると受け止められており、例えばインドでは日露戦争に勝った強い日本、第二次世界大戦では、インドの独立運動を主導したスパス・チャンドラ・ボースの国民軍を支援した国でもあり、2017 年にインドのモディ政権はボース氏の銅像を建設している最中でもありました。第二次世界大戦に敗れた後の東京裁判においては後から法律を作り日本を裁くのはおかしいと主張し、唯一日本に無罪の評決を出しました。背景に当時の欧米人がアジア人を抑圧して裁いていることへの反発もあったと考えます。

以上のことから安倍首相は戦略家としてアイデアを示し、実行してきた人物でありインドと国益だけでなく、個人的な意見までも共有する指導者であったのではないでしょうか。

安倍首相の外交モットーとして「地球儀を俯瞰する外交」が有名でした。

外交面においてこのような人物の後継者が出てくることが、彼をなくした今、日本に求められていると考えます。政党や思想に関係なくこのような人物が育っていくことを国民の１人として期待しております。

昨日も羽生田経済産業大臣が「クアッド」の枠組みで会談が行われロシア・ウクライナ危機による日本の今後のエネルギー調達に関する協力が申し合せられ、燃やしても二酸化炭素が出ないアンモニアの開発に、今後日本が中心となり研究を進めることもフォーラムの中で大臣が名言しておりました。クアッドにより天然ガス産出国のアメリカ・オーストラリアとの強い協力体制を構築したことも安倍元首相の外交の成果であることを申し添えます。

ロータリーの中で世界平和がうたわれてはおりますが、まだ解決には至ってはおりませんが二度と戦争が起きない世界平和に向けて微力ではありますが、クラブの活動の中で取り組んでいく１年にしたいとも考えております。

森友、加計問題、桜を見る会など疑念の残る課題を残した政治家ではありますが、志半ばで銃弾に倒れた安倍晋三さんのインドにおける大きな功績を紹介させていただきました。衷心よりご冥福をお祈りいたしまして会長挨拶に代えさせていただきます。

例会の様子

奥林潔前会長より昨年度の活動報告をいただきました

昨年度の活動報告をします。

本木前幹事から活動報告書の提出があり、本日、皆様のお手元に差し上げました。新型コロナの第７波に入りましたので、時間短縮のため、前年度の活動報告はこの書面のとおりとさせていただきます。

昨年度は誠にいい加減な例会開催となったことをお詫びいたします。

思いついたことを申し上げます。

今週月曜日に会計担当の津田会員から、帳簿書類、預金通帳を持参して詳細なご説明を受けました。津田会員が誠に丁寧に会計事務を担当されており、頭の下がる思いでした。

私は、３年間東京地検の検事をしており、大変気になって通帳等を見たのですが、使途不明金はありませんでした。

当クラブの年間収入はかなり多く、その着服も不可能ではありません。私には、横領する不心得者が上得意のお客様であり、手ぐすね引いてお待ちしております。

話を戻しますが、前年度は収支ともイレギュラーでして、次年度繰越金が約 300 万円も出る状態になりま

した。そこで新旧合同理事会に諮ったところ、その内から 100 万円を 60 周年事業積立金に回す方向になりました。

預金通帳の残高を見ますと、まだまだ減らしても良いのではないのかと思われましたが、退会した方の拠出金も含まれており、現会員のお手盛り使用はできません。剰余金の有効活用は、岡崎 隆会長の年度の課題として引き継ぎます。

理事会後の懇親会で、佐藤能文会員から“親睦第一。一に親睦、二に親睦”と、声がかかりました。私もそう思います。会社では、自分は社長だと肩肘を張っていても、内心は不安を抱えている方もおられるでしょう。例会に出席してお互いの顔を見るだけでも安心できます。親睦によりストレスの解消ができます。今後とも、ご出席をお願いします。

個性の強い人の集まりがロータリークラブです。大河原ロータリークラブ発展のためには、会員全員の協力と会長の強いリーダーシップが必要です。岡崎 隆会長！よろしくお願いします。

昨年の事業報告をする奥林潔前会長

出席率 100％の記念品を受けた佐々木由美子会員

主席率 100％の記念品を受けた津田政行会員

2022 年 7 月 28 日(木)　第2608回 例会

2022－2023 年度 天沼久純ガバナー公式訪問と村田・大河原・柴田ロータリークラブ合同例会の様子を写真で報告致します。

天沼久純ガバナーご夫妻

天沼久純ガバナーと櫻井淳一ガバナー補佐、
岡崎隆会長・庄司大幹事

会長挨拶、村田ロータリークラブ 小川隆秀会長

幹事報告、村田ロータリークラブ幹事 真壁京子

ガバナースピーチ・講評、天沼久純ガバナー

ガバナースピーチ・講評をいただいた天沼久純ガバナー

ガバナー補佐挨拶、櫻井淳一ガバナー補佐

ガバナーへの記念品贈呈、
柴田ロータリークラブ 野口敬志会長

閉会挨拶、大河原ロータリークラブ 岡崎 隆会長

合同例会の様子

村田ロータリークラブ集合写真

柴田ロータリークラブ集合写真

大河原ロータリークラブ集合写真

2022年7月28日(木)　第2609回 例会

会長あいさつ　　会長　岡崎　隆

皆様お晩でございます。

突然ですが例会の形式を変更させていただきました。コロナの感染が過去最大となり、たった数日で第7波の真只中、先週国内の感染者数が世界最高を記録し、県内でも連日二千人超、当町でも連日数十人の感染がみられ、重症化率の見極めはつきませんが、過去に類をみない感染拡大が起こっているという事実を受け止めるしかない状況であります。

そこでガバナー補佐を交えた5役会で今回のようなオードブルに変更し、持ち帰り方式の文章例会にすることと決定し、周知させていただく運びとなりました。

ようやく新年度が始まり1か月足らずでこのような状況になったことは残念でなりません。

昨年度の例会自粛に至った状況よりさらに悪化していると認識しております。しかし今後のクラブの運営、例会の在り方についてはあまり後ろ向きに考えたくありませんが、理事会、5役会で協議し8月例会の在り方については感染拡大状況を踏まえ近日中に再通知する場合もあるということを申し添えます。

また、会長としての大きな年間行事であるガバナー公式訪問を先週終えることができました。多くの大河原クラブの会員の出席をいただき感謝申し上げます。会長幹事会では今年1年間の活動方針を天沼ガバナーからお伝えいただき、私の1年間の取り組みについてもご指導いただきましたので、ゆっくりと皆様と例会を楽しめる状況になりましたらお話しさせていただきます。

また、当日の反省点として出席予定者が来なかったので連絡をしたところ今日ではなく、てっきり明日の木曜だと勘違していたとのことで、その後お会いした別の会員さんも翌日の木曜日と勘違いされており【水】【木】の漢字の紛らわしさ、コロナ禍での慌ただしさの中、特に今年度は日程の周知、再周知について混乱することも予想されますので、会長挨拶、幹事報告等で繰り返しすべての会員の皆様に周知徹底を図ることに努めてまいります。

最後になりますがクラブの運営、在り方について今は感染者を出さない増やさないことが一丁目一番地と考えております。

前述にあるように過去に例のない感染拡大がそこまで迫ってきましたが、皆様のお知恵をいただきながら、私自身も感染対策アドバイザーという立場からも会員の皆様の安全安心の上にロータリーの活動が成り立っていくということを胸に、残りの11か月、庄司幹事と頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

2022年8月4日(木)　第2610回 例会

会長あいさつ　　会長　岡崎　隆

皆様こんにちは！

先日は、急遽中央公民館でのオードブル持ち帰りによる文章例会にご協力いただき感謝申し上げます。その後もコロナ感染の拡大が止まることなく、会員の感染も報告される事態となっております。どんなに注意を払っても感染してしまう状況であり、今後の例会について理事の皆様のご意見をいただきました。

そして多くの理事メンバーから今月の例会は中止にすべきという意見が出たことから8月18日（木）例会、8月25日（木）夜間例会は中止とし皆様にFAXで明日以降周知させていただきます。

9月1日（木）からの例会開催は8月中の感染状況を見極めて8月25日ごろまでに会員の皆様に周知することと致します。

また本日の例会はお弁当形式で持ち帰っていただくこととし、本日予定されていた青少年奉仕、職業奉仕委員会による会員スピーチと18日に予定されていた社会奉仕、国際奉仕委員会による会員スピーチは来月以降にスライドすることと致します。

尚、本日の例会は会場設営も無く音響装置も感染防止、時間短縮のために使用致しません。よってこの後の幹事報告、委員会報告をもって閉会と致します。

以上会長挨拶と致します。申し訳ございません、ご協力をお願い致します。